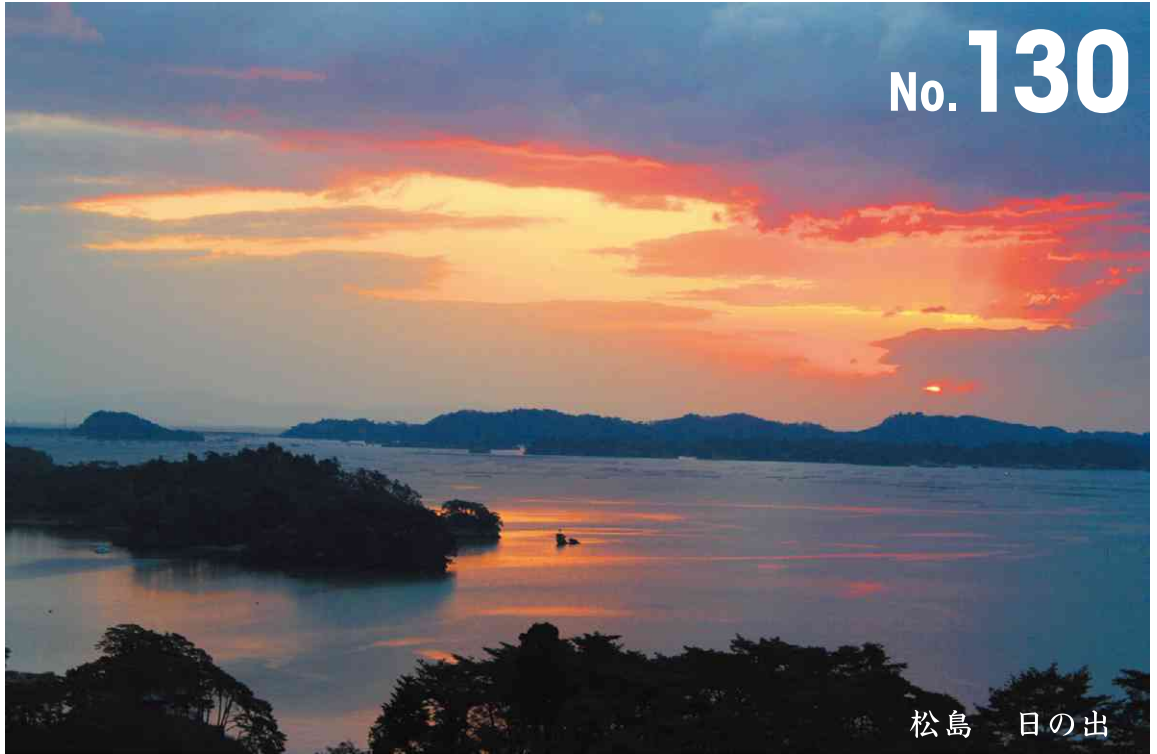


にゅとぴあ 岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa-きしわだ

No. 130



会長 井上 實

みなさまには 心新たに新年をお迎えのことと
心から お慶び申し上げます。

一昨年当初から広がりを見せた新型コロナウイルス感染症は瞬く間に急拡大し、世界の感染者は約3億人に達し、わが日本でも感染者数は山と谷を繰り返してきました。

そんななか1年間延期になっていた東京オリンピック・パラリンピックは第5波のピークにあった7月から9月にかけて大きな混乱もなく開催できました。一方、コロナワクチン接種は全人口の70%を超え、集団免疫の取得が期待されているところです。

ところで、当協会のほとんどの事業が一昨年同様に中止や延期を余儀なくされ、非常事態宣言が解除になった10月1日からやっと日本語サロンなどが市内各所で感染予防対策をとったうえで再開できることになりました。

さて今年、岸和田市は市制施行100周年の記念すべき年を迎えます。本協会としても事業等で参加し、共に祝いしたいと思います。

そのため次のような事業を計画していきます。

1. カウントダウン集合写真等に応募：日本語サロン、KIMONOクラブ、イングリッシュオープンカフェ
2. 協賛事業への応募：やさしい日本語普及のための小冊子等の作成と印刷配布
3. 冠事業への応募、等です。

どんな状況にあっても、あきらめずに目的と希望を持続ける1年にしたいと思います。



無料配布中

「にゅとぴあ岸和田」は世界の人びと、団体、都市との出会いを求め、ふれあいを大切にしたい親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。



Since 1989

ifa-きしわだ
岸和田市国際親善協会

ifa-kishiwada.rinku.org

2021 カリフォルニア～日本姉妹都市 ネットワーク秋のワークショップ(CJSCN)

共催：在サンフランシスコ日本国総領事館、在ロスアンゼルス日本国総領事館

10/22
(金)



California - Japan
Sister Cities Network

昨年春のワークショップに続いて、10月22日(金) 16:30～18:30 (アメリカ西海岸時間)、日本時間23日(土) 8:30～10:30 秋のワークショップが ZOOM 経由オンライン形式で、全体会議と地域別分科会議から構成されて開催されました。当協会は姉妹都市 Stakeholder (利害関係者) として招待されました。

今回のテーマは“Beyond Cultural Exchange-Creative Economic Collaborations”/文化交流を超えて創造的経済連携です。CJSCN はカリフォルニア州と日本国の間に存在する100以上の姉妹都市関係のプログラムを維持するための創造的な機会としての経済連携・協力の役割を話し合いながら、資金調達のアイディアを



SSF 姉妹都市協会会長 Mr.F.McAuley

Quiz

集めたり、新しいサポートネットワークに接続したり、文化交流と平和に同じ関心をもつ新しい友だちを作ったりするなど、これらの共通の側面から頼れる情報供給源になることを目的としています。

Breakout Room Discussion (分科会) では、サンフランシスコ (SF) 日本国総領事館 Facebook で紹介されている「岸和田だんじり祭」に関して、昨年はコロナ禍で中止されたが、今年は一部地域では伝統を継続するという大義名分のもとに、規模を縮小し、万全の感染防止対策をとりながら開催されたこと、また当協会の「外国人のためのだんじりインフォメーションセンター」は2年連続して閉鎖したことを報告しました。

当日の CJSCN ZOOM 会議に先立ち、別途サウスサンフランシスコ (SSF) 姉妹都市協会会長 Mr. Frank McAuley さんとの間で、十分な ZOOM 時間を確保していただき、楽しいトークで有意義な交流の機会を持つことができました。来年はSSF-岸和田市姉妹都市協定締結30周年記念を迎える節目の年となります。コロナ禍が収束し、オンラインではなく対面交流ができることを切望します。

(塩屋 裕)



日韓青少年合同オンライン音楽会

10/24
(日)



10月24日17時より開催されたオンラインイベント「声の形」。大韓国外交部が主催する公募型事業「日韓民間公共外交活動支援事業」として韓国・全羅北道国際交流センターが主催、2018年平昌五輪開会式・閉会式の音楽総監督の担当者である総監督・張 在孝(チャン・ジェヒョ)氏が総監督を務める中、実施されました。日本と韓国の青少年がオンラインを活用し音楽を通して交流と友好を深めることを目的として、各演奏者は個々に ZOOM を通して演奏、その映像を同時に流してシンクロさせて合奏スタイルにします。5つのグループに分かれたそれぞれのグループが洗練された演奏を披露してくれました。事前の演者公募は両国内の学生音楽家を対象とされていたことから鑑みると、コロナ禍で活動が思うようにできていない青少年音楽家たちの発表の場を作り出す、という文化的な支援の側面もあったのではないのでしょうか。演目としては、魔女の宅急便の主題歌や千と千尋の神隠しの主題歌、SMAPの世界に一つだけの花、そして BTS の Dynamite・Permission to dance・Butter など両国を代表する名曲を演奏。知っている両国の有名な曲が流れてくるため、興味深く聴き入ることができ、若い

演奏家たちの応援をするこのイベントの意義も感じる事ができました。今回、参加してみて、オンラインというのはもちろん実際のコンサートとは感じ取る印象は異なるものの、企画の仕方によっては広い可能性を持つのでしょうか、ということでした。外国との行き来が難しくなっている中で、無料で手軽に一瞬で両国間が音楽を通じて繋がれる手軽さがあり、尚且つ、演出の仕方次第では両国の印象や関心のあり方を変えることが可能な手段です。私自身、開会の挨拶の中で聞いた「全羅北道は韓国の中の韓国」という言葉から、全羅北道ってどんなところだろう、と興味を持ち調べましたし、ZOOM の1時間半の間だけは国境がないバーチャル空間が存在する、不思議な面白さも感じることができました。

タイトル「声の形」は、「声＝形が無いからこそいろいろな形になれる」という意味でもあり、いろんな形の国際交流が可能なのだよ、とメッセージなのかもしれません。

(虻江詩奈子)



サウスサンフランシスコ市 (SSF) の紹介

岸和田市は現在4つの都市と姉妹・友好都市関係にあります。(中華人民共和国広東省汕頭市、アメリカ合衆国カリフォルニア州サウスサンフランシスコ市、中華人民共和国上海市楊浦区、大韓民国ソウル特別市永登浦区)。今回は岸和田市との姉妹都市交流等の功績により「2020 年度姉妹都市国際ベスト総合プログラム賞」を受賞した、サウスサンフランシスコ市 (SSF) を紹介します。SSF は他にアトニルコエル アルト / メキシコ、ルッカ / イタリア、パシッグ / フィリピン、サン ジャン ピエ ド ポル / フランスとも姉妹都市関係を締結していますが、カリフォルニア～日本姉妹都市ネットワーク (CJSCN カリフォルニアと日本国の間に存在する100以上の姉妹都市ネットワーク) のホスト役を担っていますので、日本語版のホームページを設ける等、特に岸和田市との関係を重視しています。そして今年は姉妹都市協定締結30周年記念を迎えます。(広報部会)



姉妹都市プログラム賞ニュース



和文併記のホームページ

◇人口：約 6.5 万人

◇位置：北はサンフランシスコ市、東はサンフランシスコ湾、南はサンフランシスコ国際空港、西はなだらかな丘陵地が連なる。サンフランシスコ湾と山岳地帯の素晴らしい景色が一望できる。

◇気候：乾燥して涼しい夏、穏やかな冬と年間を通じて温和な気候に恵まれている。

◇都市概要：1908 年に市制が敷かれた。丘陵部には住宅や公園が広がり、臨海部は工業地帯であり、中心部は繁華街を形成している。商業、バイオテクノロジーなど新し産業を歓迎し、ビジネスの場としての魅力的な、競争的な環境を整えて成長発展を図っている。州立、市立公園や文化施設も充実している。



City Hall

姉妹都市交流の経緯

1989 年当時の岸和田市長がサウスサンフランシスコに立ち寄ったことから始まり、地勢や国際空港に隣接する立地条件が似ているので、1992 年市制 70 周年を機に姉妹都市関係が締結された。

◇交流：両市間の高校生を対象とした青少年交流事業を定期的実施している。民間レベルでは岸和田市国際親善協会とサウスサンフランシスコ姉妹都市協会の間で成人の相互訪問を実施しているが、両交流とも現在は COVID-19 により中断している。



2013年8月
SSF高校生と交流



2014年6月
高校生来岸



2015年10月
SSFだんじり祭見学



2018年10月
SSFを訪問

在サンフランシスコ日本国総領事館の Facebook に 岸和田市が紹介される

岸和田市自慢の観光名所や特産物が掲載されており、当市の魅力が広く世界へ紹介されています。
原文のまま転載します。(広報部会)

<https://www.facebook.com/cgjsf1/photos/pcb.4719496191403098/4719466428072741>

Danjiri Matsuri – This famous festival which involves pushing and pulling large wooden carts throughout the city, made the Kishiwada City known throughout the world. It is held annually in September and October.

Kishiwada Castle – A key symbol of the Kishiwada City. The Kishiwada Castle Garden is designated as a site of National Scenic Beauty, one of the Japan' s National Cultural Properties.

Kishu-kaido – The historic road connecting Osaka to Wakayama, this area was selected as a Historic Streetscape Preservation District, where merchant houses nestled up to one another, and prospered as the center of the castle town' s economic development.

Chikiri-kun – Kishiwada City' s official mascot character, his name is derived from Kishiwada Castle' s moniker, Chikiri Castle.

Natural Wonder

Daitokuji Temple – This temple, located on Ushitakiyama Mountain is known for its Tahoto Pagoda is designated as one Japan' s National Important Cultural Property.

Ushitakiyama Mountain – Rich nature, and well-known for the scenic beauty of its Japanese maple, magnificent during the fall foliage season.

Kumeda Pond – Nicknamed the “International Airport for birds”, birders can see 125 species of birds throughout the year. In early spring, cherry blossoms and flowering mustard bloom on the embankment, creating a beautiful contrast of pink and yellow.

Kanechika' s Peach – This variety of peach, “Kanechika no Momo” is a well-known product of Kishiwada and has been recognized by Guinness World Records as the “World Sweetest Peach”.

Gofuso – This estate includes a main residence and a large Kaiyu-style Japanese garden where visitors may enjoy traditional Japanese cuisine at the on-site restaurant and stroll through the garden.

Tairyo-bata or fisherman' s flags – These distinctive, stylized flags with their bright colors and bold compositions are believe to carry luck. This spectacle of numerous Tairyo-bata can be seen flapping



at the Kishiwada Fishing Port.

Youth Exchange Program – In this program, youth delegations visit Kishiwada' s sister city of South San Francisco every other year. This photo is from a previous visit to El Camino High School.

世界のみなさん
待ってるよ~!



10/16
(土)

オンラインホームビジット。とにかく楽しかった!交流したのは3人の可愛い女子学生。画面の向こうの笑顔がとっても素敵!「アッサラームアライクム!」と言ったらみんな笑顔になって交流が始まりました。まずゆっくりと家族のこと、好きなことを日本語で話し、名前を筆で書くに興味深く見てくれました。彼女たちも家族、住んでいる所など話してくれて、お気に入りの飲み物、食べ物も紹介してくれました。「毎日食べるパンのようなものです」と紹介してくれたのは細長いパイ。画面の向こうでサクサクと音がして本当においしそう。面白かったのは家の中を見せてくれた

ことです。部屋にドレスがかかっていて、友人の結婚式に着て行くのだと教えてくれました。ドレスに合わせてヒジャブ(頭を覆う布)も作ったとのこと。ヒジャブは沢山持っている?と聞くと、壁一面に花が咲くように掛けられた美しいヒジャブを見せてくれました。部屋のきれいな調度品や窓からの景色。窓の外は驚いたことにビルばかりでした。実は私は当初、エジプト交流なので歴史遺産「エジプト」を思い描いていました。でもどんな街にいても日常、普段着の暮らしがある。アラビア語のポップスを歌い、ヒジャブや洋服を鮮やかに着こなし、チーズケーキやレモネードと、きっと恋話にも花が咲く女の子たち。



私にヒッポファミリークラブ(多言語の活動)を通して、多くの国の人と交流してきました。コロナ禍で国と国の行き来はストップしましたが、人は人に出会わなきゃいけない、クローズしてる場合じゃない!と思っていました。オンライン交流は、遠い国の人に出会える新しい交流。本を読みテレビを見て、その国を知った

気になってしまいがちですが、大事なことは実際に会うこと。オンラインでもできる!そして出会いはこんなに嬉しい楽しい。みなさん、是非挑戦してみてください。世界が広がること間違いなしです!

(杉山優子)

クラブ紹介



カンガルークラブ

上級英語クラブ「カンガルークラブ」は、毎月第1、第3水曜日 10時からマドカホールにて、毎回20名くらいの出席者で楽しく活動しています。皆さんはインターネットで「TED Talks」をご覧になったことはあるでしょうか。TEDというのは、毎年大規模な世界的講演会「TED Conference」(テド・カンファレンス)を主催している非営利団体で、TED Talksは、それらの講演動画をネットにて無料配信するプロジェクトです。TEDx といってTED から公式にライセンスを受けて、世界各地でプレゼンテーションイベントも開催されており、ネットで見ることができる動画も膨大な数になっています。カンガルークラブでは毎回そのTEDを教材に使っており、事前にH先生が動画をピックアップしてスクリプトも配布していただきます。地球温暖化問題などの地球環境に関わるコミュニケーションうなもので、事前に予習を学習するだけでなく、英た色々と考えさせられます。クラスでは、まず英語のジョークを読んでウォーミングアップしたあと、TED動画を少しずつ見ながら理解を深め、時には意見を述べたり、話し合ったりします。基本は英語で話すのですが、勢い余って日本語になってしまうことも。知らなかった情報を得たり、自分の考えを整理したり、他の方の意見をきいたり、私にとってこのクラブはそういったことができる貴重な機会となっています。



化、プラスチックごみ、食するものから、認知症予防、の秘訣などすぐに役立ちするのも楽しい。単に英語語を通して知識も増え、また

コロナ禍前はTEDに加え、英語の歌を歌ったり、ゲームをしたり、輪番制で短いスピーチをしたりもしていました。今は休止中です。2020年春、最初の緊急事態宣言時にZOOMでのクラスを立ち上げ、以降新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じてオンライン又は対面でほぼ途切れず月2回クラスを続けてきました。ステイホーム期間中、画面越しとはいえクラスの皆さんにお会いできるのは嬉しいものでした。でもやはり実際に会って話すには及ばない。早く以前のように皆で歌も歌えるクラスになってほしいと願っています。(荻野昌美)

ifc コラム EL MUNDO

エルムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ世界のカルチャー、ファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを題材にとらわれず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。

《不可解なカタカナ語の乱用》



専門家でもない政治家が平易な日本語を使わず、一般に知られてないカタカナ語をよく使いだがる。「自分は知識人で専門的なことに精通しているんだ」と優位性を誇示することによって自分を権威

づけているように思われる。実際に使用されたカタカナ語を使ってコロナ禍社会を綴ってみた。

コロナ(冠の意味で病名ではない、正しくは新型コロナウイルス感染症)が武漢でアウトブレイク(疾病急造)したエンデミック(予測の感染範囲内の風土病)がエビデミック(予測の感染範囲外の流行病)に、そしてグローバル(世界的)拡大化し、クラスター(集団感染)からオーバーシュート(爆発感染)によりパンデミック(世界的流行)となり、もはやリンク(感染源)もわからないほどフェーズ(局面)が変化し、ロックダウン(都市封鎖)が行われ、ステイホーム(外出自粛)がリーゾナブル(妥当)となった。インフォデミック(根拠のない情報やデマ)でコミュニティ(地域社会)はソシアルディスターダー(社会的混乱)をプロモート(増進)させた。サチュレーション(酸素飽和度)が80アンダー(以下)となるケース(患者)用のエクモ(人工心肺装置)やバクシネーション(ワクチン接種)によりピークアウト(最大超え)した。それでもブレイクスルーインфекション(ワクチン接種後の感染)のケース(症例)が見られ、ブースター(3回目以降接種)がアージ(推進)されている。プレーンフォッグ(脳のもやもや感)などのロングコビッド(コロナ後遺症)シンプトン(症状)もクラリファイ(解明)する必要がある。

収束後はアラート(警報発動)中はインボシブル(不可能)であったセーフティーネット(救済策)のエスタブリッシュメント(確立)やドラスチック(思い切った)なプライオリティー(優先順位)をマーク(重視)し、同時にインバウンド(訪日外国人観光客)に頼らずパブリックコメント(公的に意見を募る)を実施したり、ワークショップ(研究会)もタイムリー(適宜)に開催することがインポータント(重要)である。今後はダイバーシティー(多様な働き方)をプロモート(推進)するためのガイドライン(指針)を設け、コンセンサス(合意)を得る必要がある。政治家もワニイシュー(一つの公約)・コミットメント(公約)のファーム(確実)なパフォーマンス(履行)と、イニシアティブ(主導権)をデモンストレーション(発揮)し、これによりウィンウィン(双方の利益になる)の結果を得られると考える。今やコロナ禍でハイブリッドワーク(オフィスワーク+リモートワーク)、バブル方式(内部と外部の遮断)、ゾーニング(感染/非感染地域区分)やソーシャルディスタンス(対人距離)によるアンティインフェクション(感染防止対策)はカマンセンス(常識)となっている。(塩屋 裕)

10/16

(土)

Damian Czujkowski さん
(ポーランド)

映画Shōgunが日本に関心を持つきっかけとなり、日本人女性と結婚し社交ダンス教師として日本で生活しているポーランド人のダミアンさんがゲストです。

ポーランドはドイツとロシアの2つの大国の狭間に位置しているため、幾度となく分割と統合の悲しい歴史を繰り返してきました。一方、湖や森林などの豊かな自然に恵まれた日々の生活があります。山岳地帯では羊の放牧が盛んで、羊の乳からできたチーズ、羊毛の美しいセーター、湖や川では2メートルを超える巨大なまづが獲れ、森林では人間の頭くらいの大きさのきのこが採れます。昔は冬の気候はとても厳しく気温も氷点下33度まで下がったことがあり、雪も2メートル位積もったそうですが、地球温暖化の影響か最近は以前ほど積もらないとのこと。



あでやかなポーランドの民族衣装を着たカップルが躍るのは民族舞踏のマズルカやポロネーズ、さすがショパンが生まれたお国です。ポーランドで2番目に大きい都市クラクフの近くにあるのが、世界で最初に世界遺産に登録された一つのヴィエリチカ岩塩坑、坑道だけではなくダンスホールのような広い場所が地下にあります。実は岩塩鉱で働いていた人々の安全を守るための礼拝堂とのこと。驚くべきは、壁はもちろん、床、シャンデリア、祭壇、レリーフに至るまで塩でできていることです。ここでワルツを踊っているダミアンさんの姿を想像したらぜひポーランドに行ってみたくくなりました。

(内田満弥)

11/20

(土)

Muhammad Irfan Danial Bin Muhammad Nasi さん
(マレーシア)

国名無しの世界版白地図を示され、マレーシアに色を塗ってと言われたら多分私は間違っていたでしょう。今回のEOCでも多くのことを学びました。マレーシアから和歌山大学工学部にエンジニアリングを学ぶために留学中のダニエルさんは、マレー語・英語・広東語・日本語を操る学生です。ムスリムですから、アラビア語は聖典を読むため読解オンリーで話すのはできないと聞きました。彼が小学校の時に父親の仕事の関係で1年間日本に滞在した時は、学校には通わず家での学習、homeschool形式だったようです。自転車で梅田の都会を走り回っていた記憶があるとのこと。決して無駄ではない、異国の空気を感じ取れた日々だったでしょうね。

マレーシアの料理の説明では、日本の焼き鳥そっくりの串にブレンドピーナツソースをかけた一品、自然の素材で真っ青に色付けされたごはん(ナシ)に野菜や肉が添えられたナ



シケラブ、ちょっと味見したいです。果物ドリアンの話に及ぶと、「ああ味が恋しい」と。

お父さんのフルネームが自分の名前の最後に付いて、〇〇の息子の誰々、〇〇の娘の誰々が正式名だそう。名字という概念は無いとのこと。そこは、結婚すれば女性が名字を捨てるのと似かよっています。

ともあれCommonwealth games(旧イギリス植民地54ヶ国集合の大スポーツイベント)、scrubland、inhabited、等々今日も多くの単語を知りました。帰り道、駐車場から出る時のこと、「あ、ミラー出てないよ」と、サラッと日本語で注意を受けた時には、その気配りと多言語習得者のカッコ良さをひとと感じました。

(田村志津子)



国際交流の中で不可欠なのは外国語です。しかし、日本語は他の外国語と比べて、文字も文法も全く違う言語です。これが私たち日本人にとって外国語を学ぶ上で大きなハンディキャップとなっています。また古来から海に囲まれ外国文化に接する機会が少なかったことから、無意識のうちに外国語にコンプレックスを持つようになり、苦手意識を持つのは当然です。

このような背景のなかで、皆さんはどのようにして外国語に接し学習しているのか、苦労話や感じていることを自由に投稿していただきましょう。

《日本の英語教育の変化》

私の英語との出会いは、子供の頃に流行したゴダイゴの"ガンダーラ"と言う曲でした。当時は今ほど日常に英語に触れる事はない時代でした。スマホもない為、一つ一つの単語を辞書で引きカタカナに直して歌える様にした記憶があります。たった一曲、英語の歌が歌えただけで、世界が広がった様な気持ちになりました。私が子供の頃の昭和の英語教育は教科の一つだったと思います。

平成に入り、私は子ども達に英語を教える仕事に就きました。この頃になると英語教育も変化し使える英語を中心に教える内容になりました。フレーズを覚え、単語を入れ替えながら練習する訓練方式です。間違いを恐れる傾向にある日本人の気質には

Let's learn foreign language.

この学習法が有効であると感じていました。しかし、この頃自分の意見を発信すると言う事はとても少なかったと思います。

令和に入り、英語学習の目標が大きく変わる事になりました。コミュニケーションとしての英会話から、英語を使って自分を表現する事が求められるようになりました。文法の間違いなど細かい事にとらわれず自ら発信し、他者の意見を聞き、自分との違いを認め、それを楽しむ事が大切となります。日本人はこれまで世界の多様な文化、風習、宗教等を受け入れる事が少し苦手だった様に思います。将来社会で活躍する子供たちには、英語を通じてさらに世界を広げ、多様性を認め合えるような社会を築いてほしいと思います。

(辻野恵美子)



第8回

きしわだ

岸和田を いっしょに 歩きましょう!

だい かい きしわだじょう
第1回 【岸和田城】 *城: 敵を 防ぐために 作った むかしの 建物

きしわだし きしわだじょう じょうかまち
岸和田市は 岸和田城の まわりにできた 「城下町」です。1500
ねんだい しろ ねん てんしゅ かみなり お
年代には お城が あったそうです。1827年 天守に 雷が 落
ちて 焼けてしまいました。1869年 江戸時代(1603—1868
ねん おわ めいじ じだい ねん がわ
年)が 終わって 明治時代(1868—1912年)に 変わったとき
しろ のこ
城の ほとんどを こわしてしまいました。むかしの 城で 残っ
ていのは ほり いしがき え ど じだい てんしゅ そう
た。城の 大きさは 岸和田駅の 近くから 蛸地蔵駅までの
だいたい 600mくらい ありました。堀は 3重でした。

いま てんしゅかく ねん きしわだ しみん かね だ あたら
今の 天守閣は 1954年 岸和田市民が お金を 出して 新しく
つく
作りました。

ほり てき ふせ しろ みぞ
*堀: 敵を 防ぐために 城の まわりに ほった 溝
いしがき いし つ つく かべ
*石垣: 石を 積んで 作った 壁

え ど じだい きしわだじょう
【江戸時代の 岸和田城】

※図案資料: 国立公文書館デジタルアーカイブより



↑ 天守は 5層でした

←ここは うみでした

ぶし
武士

しろ なか ぶし す
城の中に たくさんの 武士が 住んでいました
うみそ みち(きしゅうかいどう) みせ
海沿いの 道(紀州街道)には たくさんの 店が ありました

きしわだじょう
【いまの 岸和田城】



しろ まえ はちじんのにわ にわ
城の 前に 「八陣の庭」という 庭が
しげもりみれい つく
あります。重森三玲が 作りました。
てんしゅかく うえ み にわ
天守閣の 上から 見る 庭は とても
きれいです。また 岸和田の うみ
やま ぜんぶ み
山まで 全部見ることが できます。

地球家族

《doggy bag》



10月16日は1981年に国連が制定した世界の食料問題を考える「世界食料デー」です。また、最近よく耳にするSDGs (Sustainable Development Goals) は「持続可能な開発目標」のことで、17の目標があります。そのNo.1が「貧困をなくそう」そしてNo.2が「飢餓をゼロに」です。「飢えをなくし、だれもが栄養のある食糧を十分に手に入れられるよう、地球の環境を守り続けながら農業を進めよう」が目標です。世界を生徒40人の教室と考えると、その日食べるものがない、明日以降も食べ物を得られるか分からない状態の人が4人もいます。飽食の時代の私たち日本人もさすがに昨今のコロナ禍の自粛で外食の機会は激減していますが、2013年の調査では、日本の外食の中で食べ残しが一番多いのが結婚披露宴19.6%、旅館などの宿泊施設が14.6%だそうです。わたしたちのゴールの一つは食べ物を無駄にしない事、残さない事を心がけ、食品ロスをゼロにすることです。

でも、食べきれないこともあります。残った料理はもったいないから、「お持ち帰り」したくなるのは当たり前の考えで、お店の人に「持って帰りたいので入れ物ください」というと、最近は断られる事が多くなりました。お店側からすると、持って帰った物を食べて食中毒を起こされたら困るから、が大きな理由だそうです。

テーマの doggy bag (ドギーバッグ)、アメリカでは「お家のワンちゃんに持って帰ってあげるの」とのことで堂々と残り物を持って帰るそうです。店の方も、もし食中毒が起こっても、「それはあなたが犬に食べさせると言って持って帰ったのだからこちらも ok したので、人間が食べたのはあなたが勝手にしたことだ」と受け付けられないそうです。さすがにアメリカ、自己責任の国です。

(内田満弥)

Youは何しに岸和田へ?

Why did you come to **Kishiwada** ?

パウデル アヌシャ さん
(ネパール出身 / 日本国籍)



インドラ
ジャットラ祭



ヒマラヤ

ネパールは、世界一高いエベレスト山があり、またブッダ (Buddha) が生まれた国として知られています。

私はネパールの首都カトマンズ出身の パウデル アヌシャ です。

1998年の春に留学生として来日して2005年にプール学院大学の国際文化学科研究科、修士を終了しました。

2003年に同じくネパール出身で神戸大学、経済学部、大学院の留学生と結婚。大阪に来て23年になります。現在17歳の高校3年生と14歳の中学2年生の二人の娘達の母です。娘達は堺生まれ堺育ちの日本人です。外見は外国人ですが中身はすっかり日本人です。ネパールの料理よりもむしろ小さい頃から食べなじんでいる日本料理が大好きです。その中でも寿司、味噌汁、おにぎりが大好物です。

私は英語講師として小学館ホームパルをはじめ、大阪北千里インターナショナルスクールと堺市の小中高校生に英語を教えています。そして6年前に岸和田市教育委員会からの依頼で日本語指導員として週2回、岸和田市の城北小学校と旭小学校へ指導に来ています。



日本に来て感じたこと。23年も堺市に住んでいると“住めば都”と言うように近所の方との付き合いも増

え、主人はボランティア活動で近所の神社の総代も務めており、地元の方々と楽しく地域活動に積極的に参加しています。何かあった時にすぐに駆け付けてくれる仲間たちがいるので、この町堺は私たちにとって第2のふるさとなりました。

日本の祭りの中でも迫力のある岸和田だんじり祭と堺の布団太鼓に似たような祭りがネパールにもあり、それはインドラ ジャットラ (Indra Jatra) と言われます。この祭も同じ時期に同じ目的と意味合いで開催されるのでいつも子供たちやママ友だちと楽しみながら観ています。

更に日本には、四季折々の風景と旬のものを大切にしながら日常生活を楽しむ風習があり、春はお花見、夏は花火大会、秋は紅葉そして、冬はお餅つき大会、お正月も初詣に行き、子供たちは知り合いの方からお年玉をもらい、日々日本で充実した生活を送っています。

今後、今の忙しい子育てが一段落ついたら、いつも私がお世話になっている地域や学校にボランティアで自分が出来る言語学を活用して、通訳と英語を教えながら、国際交流に積極的に参加して行きたいと思っています。

(Paudel Anusha)



ランタン国立公園



世界遺産
パタンダル
ハール広場

※編注：原文のまま掲載しています。

Information

■2022年度総会

【日 時】 5月7日(土) 14:00～
【場 所】 浪切ホール4階 交流ホール

■English Open Café

各国からのゲストをお招きし、英語でプレゼンをしていただき交流を図ります。
【日 時】 9月以外の第3土曜日 13:30～15:30
【場 所】 マドカホール 3F 視聴覚室
【費 用】 無料
*事務局にお申込みください。(先着 20 名まで受付します)

■岸和田市市制 100 周年記念日に向けて カウントダウン

岸和田市役所のホームページをご覧ください。

【日 時】 1月17日(月)・・・288 日前：日本語サロン
1月18日(火)・・・287 日前：KIMONO クラブ
1月19日(水)・・・286 日前：English Open Café

にゅとぴあ岸和田 No.130

お問い合わせや感想などは事務局まで

編集担当 鮎江詩奈子・内田満弥・堀屋 裕・西村紀子・三森すみ代

TEL&FAX (072)457-9694

https://ifa-kishiwada.rinku.org/ メール ☐ kokusai@sensyu.ne.jp

